

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	玄海町立玄海みらい学園
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループ単位で授業研究会を行ったことで、全員が主体性をもって授業改善に取り組むことができた。また、基礎・基本の定着を図るために家庭学習の指導を行ってきたが、家庭学習が十分ではない児童生徒もいるので、家庭学習の充実継続して取り組む必要がある。 ・職員による朝の講話や外部講師を招聘しての講話など、多様な考え方や生き方について学ぶ機会を設けたことで、発達の段階に応じて児童生徒が夢や目標をもつことができた。しかし、職業について視野を広げるためには、町内だけでは限界があるため、今後も様々な体験を積む機会を設けていきたい。 ・特別支援教育に関する研修を実施し、支援が必要な児童生徒への対応について理解を深めることができた。児童生徒のよりよい支援のために、今後も適宜ケース会議等を開き、共通理解を図った上で具体的な支援を行ってきたい。

2 学校教育目標	みらいをひらく ～「すき」をみつけ、「よさ」をのぼす～
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性の深化と発展を目指した義務教育9年間の学びの充実 ・特別支援教育の推進と校内支援体制の充実 ・組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践「書く」「話す」など、自分の考えを伝え合う学習の充実と家庭学習の習慣化	○児童生徒によるアンケートで「自分の考えを伝える(書く)ことができた」に肯定的に回答する児童の割合が90%以上 ○家庭学習の各学年の自習時間を達成している児童生徒が75%以上	・授業中、児童生徒が必然的に書いたり、話したりする授業づくりを行う。 ・授業力向上月間を設定し、相互に授業を参観し、児童生徒が目的をもって学習を進める授業づくりを行う。 ・「家庭学習の手引き」や「学習リズムチェック表」を配布し、家庭学習に対する保護者の意識を高める。 ・「みらいっ子トーク」によって、各教科のペア、グループ活動の型に慣れ、自尊感情をもち、活発なグループ活動になるよう取り組む。 ・1人1台端末を活用し、活用率で県平均を上回る。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○前期課程の縦割り活動を年6回行い、異学年との交流を図る。 ○縦割り班での奉仕活動や集会を行う。 ○人権集会を年7回行う。 ○後期課程で、代表委員主導の学級会を年3回以上実施する。 ○校内でのボランティア活動を学期2回程度行う。 ○いじめに気づき、注意したり、先生に知らせたりできる」という肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていないと肯定的な回答をした職員90%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」と回答した児童生徒90%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・前期課程児童による縦割り活動を行う。 ・縦割り班で1年生を迎える会、仲良くしよう集会、校内奉仕作業を行う。 ・人権集会の実施や授業を通して人権・同和教育を行い、学校全体で指導にあたる。 ・生徒主体の学級会を実施し、学級間で合意形成を図る過程を通して、他者への思いやりや社会性を身に付けられるよう指導にあたる。 ・花植え、清掃活動、暑中見舞い作成、年賀状作成などのボランティア活動を行う。 ・毎月末の生活アンケートを活用する。 ・発生したいじめの事実をその日のうちに共有できるように、生徒指導部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。							
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間280分以上(1日40分程度)の児童60%以上、生徒70%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上	・昼休みに体育館や運動場の使用割合を決めて開放する。 ・部活動への積極的な参加を呼び掛ける。(後期) ・朝食喫食や残棄ゼロを呼びかける。 ・給食たよりを発行し、保護者への啓発を図る。 ・給食時間の指導や授業などで、食に関する指導を実施する。 ・スポーツチャレンジへの積極的な参加を促す。(前期) ・校内持久走大会を実施し、体育の時間や休み時間に運動場を走ることを呼び掛ける。(前期)							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ○「時間外在校等時間の上限を意図して改善に努めている」と回答する職員の割合90%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数1.4日以上	・バスケットボール(Bリーグ)、サッカー(Jリーグ)、タグラグビー、リズムトレーニング等のゲストティーチャーを招き、体を動かす楽しさを体験させる。 ・定時退勤日及び部活動休業日を設定し、履行する。 ・業務改善を視野に入れてデータを整理することにより、業務の効率化を図る。 ・業務記録(年次休暇取得日数を含む)を確認し、意識の向上と業務の効率化に取り組む。							
●特別支援教育の充実	○児童生徒一人ひとりの理解や個に応じた指導・支援の工夫・改善	○児童生徒一人ひとりの実態把握と理解をめざし、各学期に一回以上、全職員による情報共有の場を設ける。 ○特別支援の視点を取り入れた全職員対象の研修を年に一回以上行う。	・年度初めや学校行事の前など、適切な時期に要理解児童生徒について情報交換の場を設けたり、ケース会議を開いたりしてよりよい支援につなげる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて共通理解を図る。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
○地域を生かした学びの充実	○9年間を貫く海洋教育の取組	○海洋に関する知識量や認識に差がみられる ○持続可能な社会の実現に向けて自分なりの考えをもつ児童生徒を90%以上。	・めざす児童生徒像や本学園が考える「学力」を設定し、指導と評価の一体化を図っていく。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--